



第85号

2011 / 3

交通政策と国防との関係、「油断」の危機

修正 削除 移動

傑作(1)

2011/3/29(水) 午前 0:31 | RACDA活動報告 | 岡山県

Yahoo!ブックマークに登録

明治24年山陽鉄道が岡山まで開通したが、この会社は神戸資本中心だった。官鉄は新橋-神戸を建設。東北地方も民間資本だった。ところが日清日露戦争を通じて、鉄道の大量輸送機関としての価値を重視した明治政府は、山陽鉄道などを国有化した。お金の戻った神戸の資本家を中心となって岡山の路面電車を建設した。その後、海寄りの路線は仮想敵の艦砲射撃の危険があるとして、代替ルート of 平行線が建設された。井原鉄道などもそうした背景で計画された。

日本は近代文明の成長に不可欠の石油を自給できない。石油ほど便利に安全に使えるエネルギーはない。だから日本は石油のあるインドネシアをめざして太平洋戦争を始めたし、ドイツのめざしたのも中東の石油であった。戦後ドイツは石油だけに頼るのは危険だと、ある程度鉄道や都市部での路面電車を残した。それが今日のLRT建設の背景にある思想である。つまり日頃は自動車が便利だが、石油の輸入が停まった時の事を想定して、ある程度の赤字は覚悟の上で公共交通を残す政策を取ったり、自然エネルギーの積極的開発も行った。いわばエネルギーの国防政策の一環なのだ。

さて中東での反独裁ドミノがおこりはじめ、石油価格が暴騰を始めている。今迄スニー派が強かった中東支配層に代わって、イランが代表するシーア派支配が進んでいたのである。バーレーンはサウジの東にあるシーア派住民が多い国だが、支配層はスニー派であった。サウジはいまここをテコ入れしているが、実はサウジも石油の取れる東部ではシーア派が多い。バーレーンが崩壊すればペルシャ湾はシーア派のものになり、イランが影響力を増す。そうするとアメリカに守ってもらっていたペルシャ湾の日本の石油シーレーンはイランの影響下にはいる。それを見越して、中国とロシアは既にイランと接近していたのである。

石油が入らなくなれば、まず乗用車に石油が回せなくなる、まず農業生産、漁業生産、化学原料、物流にまわさざるをえなくなるではないか。日本はだれも「油断」を考えていない。高速道路無料化なんかやってる場合じゃない。実に日本の政治家の世界政治音痴にはあきれる。RACDAでは常に「国防としての公共交通重視」を訴えてきたが、ようやくその予言が現実のものとなりはじめている。国家の危機が迫っているのである。

+ コメント(2) NEW!

+ トラックバック(0)

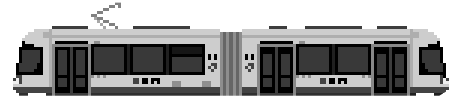
この記事のURL: <http://blogs.yahoo.co.jp/bvcdb796/61714645.html>

傑作



超低床バリアフリー路面電車MOMO 2号導入応援募金のお願い 東山線・清輝橋線に毎日車いす対応のMOMOを走らせよう 1万円で名前をMOMO 2号の車内に掲示

MOMOが導入されてから既に9年、地方の公共交通をめぐる環境は益々悪化し、2001年の規制緩和以来全国で大手バス会社が28社も



破綻するという状態に陥っています。中山間地の公共交通空白地帯の問題が顕在化し、今年は交通基本法も制定に向かって、ようやく国の地方公共交通財源も193億円から305億円と増加する見通しです。

しかし、各地の公共交通事業者は低床バス、低床路面電車を新規導入する余裕はほとんどない状況に陥っており、これは岡山電気軌道とて例外ではありません。不景気と少子化の影響で輸送人員は1日1万人を割り、運賃収入は3億円を切っています。そうした中で岡電では今年の創立100周年を記念して2編成目のMOMO導入を計画しています。その価格はなんと2億8000万円です。

2002年の導入では、RACDAは水戸岡鋭治さんにデザインをお願いすると同時に、広く市民に呼び掛けて500万円の募金を集めて岡山市に寄付しました。1万円以上の寄付者200余名は車内にプレートを設置して名前を永久掲示しています。寄付は全国から集まり、MOMOの導入は各地の超低床電車導入に大きなインパクトを与えました。豊橋の低床電車導入では市民募金が約3500万円あったとのこと。

さてMOMOと同型車は現在、高岡万葉線に6編成、富山ライトレールに7編成、富山環状線に3両編成が活躍していますが、これらはすべて高岡市や富山市が中心となって導入を図っており、いわば公設民営だからこそ可能になったとも言えるのです。また公営の熊本市では7編成、鹿児島市でも13編成の低床車が導入されています。岡山の姉妹都市サンノゼではMOMO導入の年、全60編成が低床車に一度に交換されたのです。

本格的高齢化時代を迎えて、岡山ではたった1編成のMOMOを東山線と清輝橋線に日替わり運行している状態ですが、2編成目の導入で週6日づつ車椅子対応の低床電車の運行が可能になります。さらにこのMOMO 2号は構想中の吉備線LRT化にも対応する性能を持っています。これから約40年間岡山を走るMOMOの導入を市民の力で支えましょう。

募金はRACDAが取りまとめて寄付を行います。また1万円以上の寄付者の御芳名は車内プレートに永久に掲示させていただきます。お子様やお孫さんの記念に、あるいは結婚の記念など是非それぞれの意味を見つけて御寄附ください。またまわりの方々にも呼び掛けてください。

2月の京橋朝市から一般寄付の募集を始めます。5月末までに前回の500万円以上を目標に頑張りましょう。



申し込み方法

郵便振替用紙に、MOMO応援募金と金額を書いてお振込ください。プレート掲示の氏名が複数の場合は、その由を書いてください。確認のため、葉書で領収書と掲示の御芳名をお送りします。

郵便振替 01340-8-54343 特定非営利活動法人公共の交通ラクダ

RACDA (NPO法人公共の交通ラクダ) 事務局

〒700-0823 岡山市丸の内1-1-15 TELFAX 086-232-5502

http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/メール racda_okayama@ybb.ne.jp